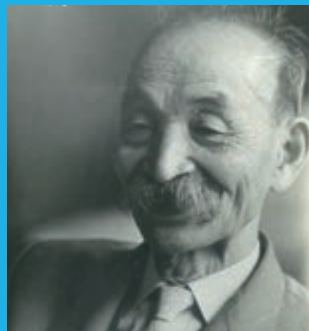


# 音楽の素晴らしさを若い人に 福井 直秋

初めての和声学の教科書を執筆

武蔵野音楽大学の創設者

一生で約1000曲を作曲



1877 (明治10) 年10月17日—1963 (昭和38) 年12月12日

## 歌が上手なお寺の息子

北陸地方の多くのお寺では、お経を読むときに、仏教の教えを分かりやすい言葉で歌にした「和讃」も歌われていました。  
新川郡江上村（現上市町）のお

寺の五男として生まれた福井直秋は、幼いころから毎日この歌を聞いて育ち、澄み切った声で上手に歌うようになりました。



直秋が生まれた家



## 音楽の道を志すことを決意

入学した東江上小学校（現上市町立宮川小学校）には、当時大変珍しいオルガンがありました。音楽好きな先生がオルガンを弾きながら、西洋から入ってきたばかりの曲を歌ってくれました。直秋はその美しさに感動し、音楽へのあこがれを抱きました。

小学校を卒業した後は、学校の先生になるために富山県尋常師範学校（現富山大学）へ進みました。

ここで直秋は、東京音楽学校（現東京芸術大学）を卒業した安田俊高先生に出会いました。直秋は先生の音楽に対する教養の深さと情熱にすっかり心を奪われ、音楽の道に進みたいと考えるようになりました。

しかし、周りの人たちからは「師範学校まで出た人間が、音楽のような遊びをなぜするのか」と、反対されました。でも直秋の固い決意は変わりませんでした。

## 音楽の教育家として高い評価

1899 (明治32) 年、直秋はあこがれの東京音楽学校へ入学しました。

直秋と同じ東京音楽学校で学んだ県出身の音楽家には、「夕日」などの童謡を作曲した室崎琴月 (1891～1977) (高岡市出身) と、バイオリニストの高階哲夫 (1896～1945、滑川市出身) がいます。音楽学校で学ぶうち、直秋は演奏家よりも音楽の教育家になろうと考えるようになりました。

東京音楽学校を優秀な成績で卒業した直秋は、音楽教師として富山や長野の師範学校に勤めました。富山県師範学校時代には、自分が作曲した曲を授業に使う新しい手法で注目されました。長野県師範学校（現信州大学）では教本を書き始め、『日英唱歌集』『初等和声学』の2冊を発表しました。

『初等和声学』は、日本人が書いた初めての和声学\*の教科書として、高い評価を受けました。

直秋が書いた「和声学教科書」 (武蔵野音楽大学提供)



東京音楽学校時代の卒業記念写真。前列右端が直秋 (武蔵野音楽大学提供)

\*和声学【わせいがく】音楽を構成する和音と、パート進行の関係を学ぶ学問。和声はメロディー（旋律）、リズム（律動）とともに音楽の三要素の一つとされます。



## 武蔵野に新しい音楽大学を創立

その後、1928 (昭和3) 年、東京の私立音楽学校の初代校長に招かれました。しかし、学校は8か月で閉校してしまい、学びの場を失った生徒たちは直秋を慕い、新しい学校の開設を求めました。

直秋は悩みましたが、生徒たちの音楽への情熱に押され、東京の武蔵野で新しい音楽学校の創設を決意します。友人、知人、親戚縁者に頼んで資金を出してもらい、1929 (昭和4) 年1月、廃校寸前だった私立学校の校舎を借りて授業をスタートさせました。教員34人、生徒は121人でした。前の学校で行き場をなくした生徒のほとんどが入学しました。

この武蔵野音楽学校は、1932 (昭和7) 年の専門学校令で各種学校から専門学校に昇格し、日本で最初の私立音楽専門学校になりました。

そして戦後の1949 (昭和24) 年、学制改革によって新制音楽大

学に認められました。今では、日本を代表する音楽大学の一つとして知られ、優れた音楽家をたくさん世に送り出しています。

直秋は亡くなる前年の85歳まで武蔵野音楽大学の学長を務め、生涯に約1000曲を作曲しました。



創立間もなくの武蔵野音楽学校 (武蔵野音楽大学提供)



ピアノを弾く直秋 (武蔵野音楽大学提供)



武蔵野音楽大学で講義をする直秋 (武蔵野音楽大学提供)

## 夢や志をかなえたポイント

- 先生との出会いを大切にする
- 自分が得意なことをもっと深める
- 一生続けられることを見つける

1877 (明治10)	0歳
新川郡江上村に生まれる	
1895 (明治28)	18歳
富山県尋常師範学校に入学	
1899 (明治32)	22歳
東京音楽学校に入学	
1902 (明治35)	25歳
富山県師範学校の教師になる	
1904 (明治37)	27歳
長野県師範学校の教師になる	
1908 (明治41)	31歳
『初等和声学』を刊行	
1920 (大正9)	43歳
東京青山師範学校の教師になる	
1929 (昭和4)	52歳
武蔵野音楽学校を開設し校長になる	
1949 (昭和24)	72歳
武蔵野音楽大学の初代学長になる	
1962 (昭和37)	85歳
上市町の名誉町民に選ばれる	
1963 (昭和38)	86歳
東京都の自宅で亡くなる	

## コラム 直秋が影響を受けた作曲家 滝廉太郎

「荒城の月」などの作曲家として知られる滝廉太郎は、小学生のころの数年を富山県で過ごしました。後に東京音楽学校を卒業し、同校の教授補助をしているとき、学生の福井直秋と親しくなりました。

二人は富山の思い出などを語り合いながら交流を深め、廉太郎がヨーロッパへ留学する送別音楽会では直秋が学生を代表して送別の言葉を述べました。



滝廉太郎少年像 (富山市丸の内)